



平成27年2月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成26年6月30日

上場会社名 株式会社 パイプドビッツ 上場取引所 東
 コード番号 3831 URL http://www.pi-pe.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長CEO (氏名) 佐谷 宣昭
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役CFO (氏名) 大屋 重幸 TEL 03-5575-6601
 四半期報告書提出予定日 平成26年7月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無： 有
 四半期決算説明会開催の有無： 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年2月期第1四半期の連結業績（平成26年3月1日～平成26年5月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年2月期第1四半期	714	18.6	140	27.1	141	25.7	80	18.3
26年2月期第1四半期	602	—	110	—	112	—	68	—

(注) 包括利益 27年2月期第1四半期 79百万円 (17.8%) 26年2月期第1四半期 67百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年2月期第1四半期	10.37	10.03
26年2月期第1四半期	9.00	8.99

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
27年2月期第1四半期	2,860	2,321	81.0	297.09
26年2月期	2,643	2,060	77.8	271.44

(参考) 自己資本 27年2月期第1四半期 2,317百万円 26年2月期 2,055百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年2月期	—	—	—	13.00	13.00
27年2月期	—	—	—	—	—
27年2月期(予想)	—	7.00	—	9.00	16.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

3. 平成27年2月期の連結業績予想（平成26年3月1日～平成27年2月28日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	1,440	19.6	275	23.8	275	22.5	165	20.9	21.16
通期	3,200	27.1	700	23.9	700	23.7	420	22.6	53.86

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	27年2月期1Q	7,799,180株	26年2月期	7,572,000株
② 期末自己株式数	27年2月期1Q	116株	26年2月期	116株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	27年2月期1Q	7,766,554株	26年2月期1Q	7,564,684株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であります。なお、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	4
4. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国の経済状況は、政府の経済政策や日本銀行による金融緩和の効果により企業収益は改善し、緩やかな回復基調が続いておりますが、海外景気の下振れ等、依然として先行きは不透明な状況が続いております。

インターネット業界においては、総務省の平成24年「通信利用動向調査」によると、クラウドサービスを利用している企業の割合は、28.2%と前年度の利用企業割合から6.6ポイント上昇しております。なかでも、資本金50億円以上では52.8%と前年度の利用企業割合から8.4ポイント上昇しており、急速に普及が進んでおります。

当社グループでは、クラウドサービスの市場拡大やスマートフォンの普及拡大といった、当社グループにとって追い風とも言える事業環境を背景に、将来の収益貢献を見据えた人材の積極採用を行うとともに、業種又はサービス間の相乗効果を発揮しやすい営業組織体制の見直しを行い、一部事業についてカンパニー制を採用することによりスピードや機動力を重視する体制にしたことで、クライアントへ提案するソリューションの質的向上とアップセルをはかり、積極的に活動をしてまいりました。

当第1四半期連結累計期間の主な活動としては、平成26年3月14日付でASP/SaaS型コールセンタープラットフォームサービス「BizBase」の開発及び提供をしている株式会社アズベイス（以下、「アズベイス」という。）を簡易株式交換により完全子会社化し、連結の範囲に含めております。今回の簡易株式交換による子会社化を通して、アズベイスが持つコールセンターシステムに関する様々な技術を活かすことで、当社グループの情報資産プラットフォームの機能強化や拡充が期待できます。一方、アズベイスにおいても、当社の情報資産の管理、運用のノウハウや営業力を活かすことによってシナジー効果を発揮し、より価値のあるサービスの提供を目指してまいります。

また、平成26年5月20日付で東京証券取引所第一部へ上場市場を変更いたしました。東京証券取引所第一部への市場変更による会社の信用力とブランド力の向上を背景に、さらなる事業の創出、育成、発展をとおして業績の拡大を目指してまいります。なお、市場変更による手数料等として24百万円が一時費用として発生いたしました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高は714百万円（前年同期比18.6%増）、営業利益は140百万円（同27.1%増）、四半期純利益は80百万円（同18.3%増）となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

①情報資産プラットフォーム事業

当第1四半期連結累計期間の活動の内、情報資産プラットフォーム事業の主な活動は以下のとおりです。

i) 「スパイラル(R)」

平成26年5月13日付にて、クラウドサービスのセキュリティに特化した認証である「STAR認証」を日本企業として初めて取得いたしました。この認証により、スパイラル(R)のセキュリティの信頼性を証明することができました。今後も常時、安定稼働するサービスはもとより、サービスのセキュリティ強化を継続的に推進し、お客様により安心してお使いいただける質の高いサービス提供に努めてまいります。この結果、「スパイラル(R)」の有効アカウント数は3,118件となりました。

ii) アパレル特化型ECプラットフォーム「スパイラルEC(R)」

既存顧客の要望に応じて機能強化を行なった結果、契約数の増加につながりました。今後はスパイラル(R)との連携を視野に、メルマガやキャンペーンなど、より販売活動を促進できる機能強化を行なってまいります。この結果、「スパイラルEC(R)」の有効アカウント数は52件となりました。

iii) 会計クラウド「ネットde会計(R)」 「ネットde青色申告(R)」

新消費税率への対応、及び消費税率一括変換機能を搭載いたしました。これにより、消費税法改正により会計ソフトの切替えに伴うお客様からの問合せや申込が増加いたしました。また、日計表機能を拡充し、グラフ表示機能やメール通知機能を搭載いたしました。今後は、当社の強みの一つであるサポートを重視したサービス展開をはかってまいります。この結果、「ネットde会計(R)」 「ネットde青色申告(R)」の有効アカウント数は1,754件となりました。

iv) クラウド型グループウェア×CMS×SNS連携プラットフォーム「スパイラルスペース(R)」

平成26年5月にアップデートを行い、CMS機能を強化いたしました。今後も、さらなる機能強化をはかりながら、前期に4,000件強の契約数を有償版に切り替えた実績をもとに当社サービスと連携し契約数の増加を推し進めてまいります。この結果、「スパイラルスペース(R)」の有効アカウント数は4,673件となりました。なお、無償版のサービスをご利用のアカウント数は7,752件となっております。

v) その他の情報資産プラットフォーム

その他の情報資産プラットフォームとしては、薬剤・医療材料の共同購入プラットフォーム「JoyPla(R)」、美容師とお客様のヘアカルテ共有サービス「美歴(R)」、地域密着型SNS「I LOVE 下北沢」、政治・選挙プラットフォーム「政治山(R)」、BIM建築情報プラットフォーム「ArchiSymphony(R)」、コールセンタープラットフォームサービス「BizBase」などがあります。

この内、「I LOVE 下北沢」では、他社と協力し積極的にイベントを行なっており、今後においても、iPhone及びAndroid向けアプリ「下北沢 Love Collection」のさらなるバージョンアップをはかりながら、アプリと連動したイベントを行なっております。

「ArchiSymphony (R)」では、平成26年3月に国土交通省から「BIMガイドライン」が発表されるなど、今後急速に普及が進むとみられる環境のなかで、ゼネコンや設計事務所におけるBIM活用のニーズが高まっており、さらなる業容拡大に向けて、バージョンアップに向けた開発をすすめるとともに、人材採用による体制強化をはかってまいります。

「BizBase」は、当第1四半期連結累計期間より連結子会社となった株式会社アズベイスで提供しているコールセンタープラットフォームサービスです。IP-PBX、CTI、CRM、通話録音を一括して提供することでコールセンター運営に必要な機能をオールインワンで提供しております。

その他の実績としては、第三者機関として「AKB48 37thシングル選抜総選挙」のシリアルナンバー投票システムの構築・提供及び各チャネルからの投票結果の集計を行い、公正な選挙運営を支援いたしました。また、当社が提供するプラットフォーム群の契約情報などを統合管理する「パイブドピッツ アカウントサービス」を提供開始いたしました。これにより、複数サービスをご導入いただいているお客様の契約情報などの統合管理が行えます。

これらの結果、情報資産プラットフォーム事業の売上高は613百万円（前年同期比18.7%増）、営業利益は141百万円（同20.6%増）、有効アカウント数は10,041件となりました。

② 広告事業

広告事業は、主に(1)クライアントのサービス認知度の向上、Webサイトへの集客、ブランド力向上等マーケティング支援を目的としたインターネット広告の代理販売、(2)自社で運営するメディア媒体における広告販売、(3)アフィリエイトASP一括管理サービス「スパイラルアフィリエイト(R)」の販売などを行っております。

「2013年(平成25年)日本の広告費」(株式会社電通調べ)によると、平成25年の総広告費5兆9,762億円の内、インターネット広告市場は9,381億円(前年比108.1%)と推定され、継続して市場規模が拡大しております。このような環境のもと、当社ではクライアントへの更なる付加価値の向上を目的に体制の強化をはかりながら、情報資産プラットフォーム事業と連携を強化し、「スパイラルアフィリエイト(R)」を中心に販売活動を強化してまいりました。

これらの結果、広告事業の売上高は36百万円（前年同期比42.9%増）、営業利益は5百万円（前年同期の営業損失は7百万円）、有効アカウント数は222件となりました。

なお、当社は、広告事業の売上高については、広告枠の仕入高を売上高から控除する純額で表示（ネット表示）しており、広告枠の仕入高控除前の総額で表示（グロス表示）した場合の売上高は417百万円となります。

③ ソリューション事業

ソリューション事業は、主に(1)インターネット広告の制作業務やWebシステムの開発業務の請負、(2)アパレル・ファッションに特化したECサイトの構築及び運営受託、(3)子会社であるペーパーレススタジオジャパン株式会社が提供するBIM導入コンサル事業、BIM製作受託事業などを行っております。

平成26年4月23日付にて、五洋建設株式会社とBIM推進に関する業務提携に合意いたしました。本合意により、国内特有の契約形態や設計、施工案件におけるBIMコンストラクションマネジメント推進を目指すとともに、複数部門がBIMデータを一元的に利用して効率的にプロジェクトを遂行できるような標準仕様をまとめあげ、ツール化してまいります。

また、平成26年6月1日付でオムニチャネル実践研究所を立ち上げ、お客様とともにオムニチャネル施策を実践、検証し、顧客拡大、購買促進を目指してまいります。

これらの結果、ソリューション事業の売上高は64百万円（前年同期比7.7%増）、営業損失は6百万円（前年同期の営業利益は0百万円）、有効アカウント数は61件となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 財政状態の分析

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ217百万円増加し、2,860百万円となりました。これは主に、設備投資による有形固定資産の増加22百万円、簡易株式交換による株式会社アズベイスの完全子会社化によるのれんの増加187百万円、差入保証金の増加13百万円によるものであります。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末比で43百万円減少し、539百万円となりました。これは主に、取引規模の拡大や東証一部への上場手数料の発生による未払金の増加43百万円、未払費用の増加20百万円、法人税等の支払いによる未払法人税等の減少122百万円によるものです。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末比で260百万円増加し、2,321百万円となりました。これは主に、株式会社アズベイスとの簡易株式交換のための新株の発行による資本金の増加150百万円、資本剰余金の増加129百万円によるものです。

②キャッシュ・フローの状況

当第1四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べ0百万円減少し、1,458百万円となりました。

当第1四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第1四半期連結累計期間における営業活動の結果得られた資金は、86百万円(前年同期は24百万円の支出)となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益の計上141百万円、減価償却費36百万円、売上債権の減少額23百万円、未払金の増加額38百万円、法人税等の支払額153百万円によるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第1四半期連結累計期間における投資活動の結果支出した資金は、3百万円(前年同期は20百万円の支出)となりました。これは、有形固定資産の取得による支出15百万円、無形固定資産の取得による支出22百万円、貸付金の回収による収入12百万円、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入21百万円によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第1四半期連結累計期間における財務活動の結果支出した資金は、83百万円(前年同期は増減なし)となりました。これは、ストックオプションの行使による収入0百万円、配当金の支払額83百万円によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

わが国経済については、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動により弱い動きも見られますが、次第にその影響が薄れ、各種政策の効果が発現する中で、緩やかに回復していくことが期待されます。しかし、海外景気の下振れなどわが国の景気を下押しするリスクがあり、先行きを楽観視できない経済環境が続くものと予想されます。

このような経済環境のなか、当社グループの当第1四半期連結累計期間はほぼ計画どおりに推移しておりますが、引き続き国内外の経済環境や景気動向に不安材料が存在しており、当社業績への影響についても不透明な部分が多いことから、平成26年3月31日に公表した業績予想に変更はございません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

当第1四半期連結累計期間より、簡易株式交換により株式を取得した株式会社アズベイスを連結の範囲に含めております。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

4. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年2月28日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,459,337	1,458,734
売掛金	567,650	567,743
たな卸資産	2,167	11,018
その他	132,910	100,899
貸倒引当金	△5,098	△5,506
流動資産合計	2,156,967	2,132,889
固定資産		
有形固定資産	52,118	74,918
無形固定資産		
のれん	64,008	251,330
その他	234,364	244,650
無形固定資産合計	298,372	495,980
投資その他の資産		
差入保証金	122,983	136,434
その他	15,554	23,381
貸倒引当金	△2,986	△3,122
投資その他の資産合計	135,551	156,693
固定資産合計	486,043	727,592
資産合計	2,643,010	2,860,481
負債の部		
流動負債		
買掛金	7	13
未払金	250,728	293,797
未払費用	27,486	48,181
未払法人税等	158,053	35,672
未払消費税等	30,900	29,862
賞与引当金	76,554	41,350
その他	38,819	90,172
流動負債合計	582,550	539,050
負債合計	582,550	539,050
純資産の部		
株主資本		
資本金	316,093	466,107
資本剰余金	226,093	355,686
利益剰余金	1,513,147	1,495,282
自己株式	△27	△27
株主資本合計	2,055,307	2,317,048
新株予約権	3,440	3,300
少数株主持分	1,712	1,082
純資産合計	2,060,460	2,321,430
負債純資産合計	2,643,010	2,860,481

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年3月1日 至平成26年5月31日)
売上高	602,495	714,683
売上原価	124,877	142,344
売上総利益	477,618	572,338
販売費及び一般管理費	366,958	431,685
営業利益	110,659	140,653
営業外収益		
受取利息	528	281
受取手数料	—	190
助成金収入	868	—
その他	226	—
営業外収益合計	1,622	472
営業外費用		
その他	19	—
営業外費用合計	19	—
経常利益	112,262	141,125
特別利益		
新株予約権戻入益	130	140
特別利益合計	130	140
特別損失		
固定資産除却損	—	22
特別損失合計	—	22
税金等調整前四半期純利益	112,392	141,243
法人税、住民税及び事業税	18,788	33,724
法人税等調整額	25,732	27,579
法人税等合計	44,520	61,304
少数株主損益調整前四半期純利益	67,871	79,938
少数株主損失(△)	△234	△630
四半期純利益	68,106	80,569

(四半期連結包括利益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成25年3月1日 至 平成25年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成26年3月1日 至 平成26年5月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	67,871	79,938
四半期包括利益	67,871	79,938
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	68,106	80,569
少数株主に係る四半期包括利益	△234	△630

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年3月1日 至平成26年5月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	112,392	141,243
減価償却費	21,704	36,369
貸倒引当金の増減額(△は減少)	720	543
賞与引当金の増減額(△は減少)	△35,105	△36,079
受取利息及び受取配当金	△528	△281
売上債権の増減額(△は増加)	△16,094	23,119
たな卸資産の増減額(△は増加)	5,031	△8,851
仕入債務の増減額(△は減少)	△268	△6,486
未払消費税等の増減額(△は減少)	△8,572	△2,423
未払金の増減額(△は減少)	△213	38,831
その他	3,268	53,471
小計	82,335	239,456
利息及び配当金の受取額	522	294
法人税等の支払額	△107,721	△153,388
営業活動によるキャッシュ・フロー	△24,863	86,362
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△5,396	△15,293
無形固定資産の取得による支出	△24,210	△22,870
貸付金の回収による収入	9,081	12,559
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	—	21,988
敷金及び保証金の回収による収入	84	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	△20,441	△3,616
財務活動によるキャッシュ・フロー		
ストックオプションの行使による収入	—	27
配当金の支払額	—	△83,376
財務活動によるキャッシュ・フロー	—	△83,348
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△45,305	△602
現金及び現金同等物の期首残高	1,138,336	1,459,337
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,093,031	1,458,734

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、平成26年3月14日を効力発生日とした株式会社アズベイスを完全子会社とする簡易株式交換に際し、新たに普通株式を発行し割当交付いたしました。これに伴い、資本金150,000千円、資本準備金129,579千円が増加いたしました。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自平成25年3月1日至平成25年5月31日)

(1) 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				四半期 連結損益計算書 計上額 (注)
	情報資産 プラットフォーム 事業	広告事業	ソリューション事業	計	
売上高					
外部顧客への売上高	516,721	25,636	60,138	602,495	602,495
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	516,721	25,636	60,138	602,495	602,495
セグメント利益又はセ グメント損失(△)	117,211	△7,394	841	110,659	110,659

(注) セグメント利益又はセグメント損失の合計額は四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

(2) 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(3) 報告セグメントの変更等に関する事項

会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更に記載のとおり、法人税法の改正に伴い、当第1四半期連結会計期間より、平成25年3月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更したため、報告セグメントの減価償却の方法を改正後の法人税法に基づく方法に変更しております。

当該変更に伴うセグメント損益に与える影響額は軽微であります。

II 当第1四半期連結累計期間(自平成26年3月1日至平成26年5月31日)

(1) 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				四半期 連結損益計算書 計上額 (注)
	情報資産 プラットフォーム 事業	広告事業	ソリューション事業	計	
売上高					
外部顧客への売上高	613,288	36,644	64,750	714,683	714,683
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	613,288	36,644	64,750	714,683	714,683
セグメント利益又はセ グメント損失(△)	141,347	5,681	△6,376	140,653	140,653

(注) セグメント利益又はセグメント損失の合計額は四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

(2) 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

当第1四半期連結累計期間に「情報資産プラットフォーム事業」セグメントにおいて、簡易株式交換により株式会社アズベイスを完全子会社化したことにより、のれんが204,058千円発生しております。

(3) 報告セグメントの変更等に関する事項

該当事項はありません。